

芭蕉元祿事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成二十五年九月度 入選句（投稿総数千七百三十五句・一般投句数五百七十五句）

特選 選者 名和 永山

残暑とは言えふるさとの風は別 福井県福井市 三ツ山 ひろし

今年は例年になく暑い日が続きました。また、いつまでも暑い。残暑もきびしかり。どこへ行っても暑いのだが「ふるさとの風」に気持ちも癒されているのでしょうか。きっと故郷の風は涼しさも家庭の温かい思いも運んでくれるのでしょう。「故郷の風は別」と、はつきり言い切っていることで句が締めまりましたね。

故郷の土の香つるり衣被 大垣市 片山 洋紅

「故郷から送られてきた「衣被」。きつと土の付いたままでした。香りだけでなく故郷の思い出も一緒に運ばれてきたのでしょうか。「故郷の香」は、故郷の景色、家族や友人、そして思い出などがつまった「香」なのです。その「香」を「つるり」と口にした作者の笑顔が現れます。「つるり」と口に「衣被」が食べられていく情景も目にすることができますね。

同姓の多き輪中や柿の花 愛知県尾張旭市 古賀 由理央

「輪中地帯」の大垣。だんだんと住宅地域も多くなり、農業をする人が少なくなってきました。す。田植えの時期などには、近所の親戚が力を合わせ農繁期をむかえます。田植えは「水引き」に合わせ、一気に行わなければならないので大変でした。本家や分家など、集まった人の苗字は同じでしょうね。季語「柿の花」はそんな時期を示しているのでしょうか。

秀逸

炎天下五百羅漢に我探す 不破郡垂井町 久保田 絃義

公園に子とたわむれて秋の暮 滋賀県米原市 樋口 善樹

夫の忌に合わせ新米搗き上る 養老郡養老町 上村 砂子

蒼空に一刷毛の雲今朝の秋 養老郡養老町 田中 紫香

今生の証とばかり秋の蟬 養老郡養老町 田中 秀子

摺りくせの真中のへこみ硯洗ふ 大垣市 川瀬 喜梅古

処暑の風入れて天守の武者溜り 大垣市 森川 きよ子

最初はグー隠れる庭に夕とんぼ 大垣市 鶴田 信子

落ち合へる木曾三川や大西日 愛知県豊田市 城山 憲三

出来た句もひよいと忘れる秋隣 埼玉県三郷市 藤本 和佑

入選

朝顔の彩さまざまに揃ふ鉢	大垣市	林 芳江
細道を辿る夏なり喜寿の旅	神奈川県川崎市	中子 真一
城壁の白さにまさる秋の風	大垣市	栗田 基弘
炎昼に影濃く溶けて立哨す	東京都世田谷区	関戸 信治
炎天を来て荷崩れのごとし座し	福井県福井市	三ツ山 しげこ
十葉に埋めつくされし無縁仏	不破郡垂井町	竹嶋 富美子
満月や石灯ろうも影かすむ	大垣市	菅谷 きみ
輪唱の数増えていく秋の夜	大垣市	谷 彩虹
爪先やちよつと早めの秋の色	岐阜市	後藤 衣錦
芋掘しまづは仏に供へけり	大垣市	傍島 隆

入選

残業の疲れ癒すや虫の声	大垣市	林 ひとみ
ぎす鳴けりボリューム下げてきくラジオ	大垣市	棚橋 みさを
飯沼慾斎の草木図説や大花野	大垣市	久保田 悟義
蛸や静かに老ゆること願ふ	不破郡垂井町	北村 照子
夏耕の一瞥鋤を振りかざす	大垣市	横井 正明
束の間の涼しき伊吹見へる朝	大垣市	秋山 くに子
パレットに深まる秋を溶かしをり	大垣市	田村 久夫
踊りの輪ゆかたの裾も翻る	大垣市	川瀬 芙沙子
底紅や今日一日を咲き誇り	滋賀県草津市	井口 和代
心太隠した過去が甦り	埼玉県さいたま	齊藤 博之

選者吟

平凡といふ幸せや月満つる

永山